

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部)

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の体系を内外に明示する。	→カリキュラムマップの作成 (2013年度までに)	C
2. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の適切性を検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会 (学部) による検証および教授会に対する報告書の作成 (2013年度までに)	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

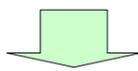
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目	(現状説明)
☆ 小項目6.2.1	明文化された方針はまだ確定していないが、履修コース (キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース) あるいは専門領域 (旧約聖書学/新約聖書学/歴史神学/組織神学・宗教哲学/実践神学) に基づいて、教養・専門教育および必修・選択科目を明確に位置づけし、およそ体系的に課程を編成していると言える。そのことは、現状のディプロマ・ポリシーや履修モデルの策定において、従来のカリキュラムを大きく変更する必要が認められなかったことから裏付けられている。
☆ 小項目6.2.2	1年次においては「旧約聖書入門」「新約聖書入門」や「キリスト教の歴史」など専門への導入授業からキリスト教神学の基礎を養成することを重視する一方、「基礎演習」において、文献の探し方や文章の書き方など、大学で学ぶ基本技術の修得を目指している。2年次においては「キリスト教教理の体系」や「キリスト教と文化概論」をはじめとして、履修コースを意識した専門科目の履修を開始する。さらに3・4年次においては、個々人の興味と関心を意識した専門科目を履修し、それを「演習」科目で深めることを可能としている。また、自由履修科目として全学および他学部開講の科目を組み合わせることも可能となっている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



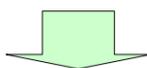
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○「目標・指標」2は、6.2.2と関連すると思われませんが、「進捗評価」Dと6.2.2の現状説明が整合していません。

【学内委員】

○「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」における努力義務である「教育課程を通じて修得が期待される知識・能力の体系」についても、早急な対応が期待されます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、そのためにも、どこを見れば教育課程がわかるのか明示することも必要ではないでしょうか。

○目標にふれることによって現状説明がよりわかりやすくなり、現在の課題も見えてきます。

○小項目6.2.1については、効果の上がっている事項を、もっと積極的に評価しても良いのではないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

＜個別的な指標＞

--	--